

# ◇ 令和4年度 指定管理者事業評価書

施設名	水生植物公園みずの森			指定管理料	利用料金	支出	経理の状況	施設運営の方針
施設所管課	建設部	公園緑地課	初年度	175,490,000円	12,812,800円	188,237,222円	利用料金の実績は計画より少なかったが全体としてバランスのとれた収支であった。	都市公園であるみずの森の豊かな自然と調和を図り、子どもから大人まで利用できる公園としての運営
施設HPアドレス	<a href="http://www.seibu-la.co.jp/mizunomori/">http://www.seibu-la.co.jp/mizunomori/</a>		2年目	177,100,000円	12,418,500円	187,318,706円	新型コロナウイルスの感染拡大による臨時休園などにより人件費を抑えながら園地整備を主体に支出した。	見やすく、いつ来ても見所がある公園を目指すとともに、安らぎの空間を提供するよう運営を行った。
指定管理者名	近江鉄道ゆうグループ		3年目	177,100,000円	14,835,300円	192,893,770円	昨年に続き臨時休園が発生したが、25周年事業等PRを行い集客に努めた結果、昨年を上回る利用料金収入があった。	コロナ感染防止対策を行い、企画展や自主事業を行い、楽しめる植物公園の維持に努めた。
指定期間	平成31年4月1日 ~ 令和6年3月31日		4年目	177,100,000円	18,178,790円	206,698,828円	入園者増による利用料金の増収になった。しかし、原油価格高騰の影響を受け、光熱費の顕著な増加があった。(運営支援金の補填あり。)	年間を通して楽しめる植物園を目指し、季節ごとに楽しめる花々の整備を進め、そのPRに努めた。
評価対象期間	令和4年4月1日 ~ 令和5年3月31日		5年目					

●総合評価の基準		
5	☆☆☆☆☆	評価基準のすべてが☆☆☆以上で、かつ、最も多い評価が☆☆☆☆☆である
4	☆☆☆☆	評価基準のすべてが☆☆☆以上で、かつ、最も多い評価が☆☆☆☆である
3	☆☆☆	評価基準の最も多い評価が☆☆☆である
2	☆☆	評価基準の最も多い評価が☆☆である
1	☆	評価基準に☆が1以上ある

○その他の項目	
公募・非公募の別	公募
使用料・利用料金制の別	利用料金制
指定管理者による運営開始日	平成25年4月1日
施設の供用開始日	平成7年8月13日
指定管理導入前の運営形態	市直営

## ◆総括評価を概括した総合評価の所見(成果・改善等)

●指定管理者の総合自己評価…	☆☆☆☆	●市(施設所管課)の総合評価…	☆☆☆
<b>年度の管理・運営に係る事業目標(年度当初に記入)</b>		<b>事業目標および管理・運営に対する評価(事業年度終了後記入)</b>	
<p>・みずの森の特徴であるハス、スイレンを中心に他では真似できないボリュームと景観でお客様をお迎えすると共に、閑散期にも見所となる花を揃え、年間を通して楽しめる植物園を目指す。</p> <p>・開花期や企画展示と情報発信の連携強化により、リピータの増加と年間入園者数87,000人を目指す。</p> <p>・施設の老朽化を踏まえ、大規模修繕を見越した施設の維持管理と問題箇所の早期発見に努める。</p>		<p>・年間入園者数が112,838人となり、目標入園者数の87,000人に対して129.6%で25,838人増となり、目標の入園者数を大きく上回る結果となった。このことは各シーズン(春のデルフィニウムや冬のアイスチューリップ、早春のクリスマスローズなど)の展示装飾がみずの森ならではの演出となっており、適宜宣伝PRも実施されており、装飾展示と宣伝PRが相まってみずの森への集客につながったものとして評価する。</p> <p>・老朽化していた、みずの森案内看板が美しく更新された。</p> <p>・みずの森は有料施設として魅力ある植物管理および企画・展示等を行う必要があることから、今後も宣伝・PRを十分に行いながら日々の植物観察および状況変化に応じた適切な管理運営に努められたい。</p>	
<b>事業目標および管理・運営に対する自己評価(事業年度終了後記入)</b>		<b>公募・非公募、使用料・利用料金制の導入についての効果の検証</b>	
<p>新型コロナウイルス感染の影響が残るものの、年度当初から指定管理移行以来の月間入園者数を記録し、最終的には年間入園者数が112,838人と2015年に次ぐ多い数字となった。また、前年比でも122.6%と大きく上回ることが出来た。植栽については、初夏のスイレンや真夏のハスに加え、春のデルフィニウムや冬のアイスチューリップ、早春のクリスマスローズなどその季節の中心となる花を揃えPRすることで集客につなげることが出来た。年度当初に予定していた企画展やイベントは新型コロナウイルスの感染状況を確認しつつ、全て開催することができた。また、「ハスいっぱいプロジェクト」では新しい方法を取り入れ、植え付けをした鉢の生育状況や開花状態を近くで観察できるようにすることで、これまで以上にハスに関心を持てるように工夫した。植栽管理では、公園北側の大きく育ち過ぎた樹木の切り戻しなどを行い、林床の植物とのバランスを考えた森を創出。アトリウム外側池の法面を芝生エリアへと再整備し、修景に配慮した管理を行った。</p>		<p>(応募状況:公募)</p> <p>施設管理に関して、民間による高い管理技術と経済的運営を行う管理者を求めため公募による選定とした。</p> <p>(利用料金制度:導入)</p> <p>今期から、利用料金制を導入したことに伴い、中学生以下の入園料を無料、65歳以上の大人の入園料を半額にしたことにより、65歳以上の入園者数の増加につながった。</p> <p>前年度の入園者数92,061人(新型コロナウイルス感染症防止の休園あり)に対して、122.6%の増となった。</p>	

◇施設に係る主な指定管理業務	
水生植物公園みずの森の運営管理において、目指す植物園像の趣旨を十分理解して、管理業務仕様書に沿って次の業務を行う。 (1)有料植物園としての植物等の管理・展示業務、(2)利用者満足度を高め、入園者数を確保する業務、(3)快適な環境を提供するための施設の維持管理業務、(4)ノウハウを活かし、ニーズに合った自主事業、(5)公園の運営管理業務	

◆評価基準	
☆☆☆☆	仕様書・協定書等の基準を遵守し、その水準よりもはるかに優れた内容である
☆☆☆	仕様書・協定書等の基準を遵守し、その水準よりも優れた内容である
☆☆	仕様書・協定書等の基準を遵守し、概ねその水準に沿った内容である
☆	仕様書・協定書等の基準は遵守し、若干の改善が必要な内容である
☆	仕様書・協定書等の基準を遵守しておらず、改善が必要な内容である

植物園としての植物等の管理・展示に関する業務（仕様書その1 p 4～12、17、その2 P 4～61）				
評価項目1	指定管理者の自己評価		市（施設所管課）の評価	
	上半期評価	初夏から夏にかけて屋外展示のメインとなる「花影の池」では、スイレンやハス、ルイジアナアイリスなどのボリュームと配置を工夫しここでしか観賞できない風景を演出。さらに、春はデルフィニウムで「コミュニティ広場」を豪華に演出し、その後はアジサイの鉢物を「万葉の道」に並べ品種展示を行うなど、季節ごとに見所を創出した。	上半期評価	魅力ある植物園作りとして、見どころの創出された。特にデルフィニウムやアジサイの展示について評価する。また、芝生は良い管理がなされている。
	☆☆☆☆		☆☆☆	しかし、植物管理において、かん水作業や病害虫防除、除草作業については、基本の作業であり、常に美しく観賞いただけるように、日常管理に努めていただかなければならない。
	下半期評価	冬期期間の見所としてアイスチューリップを6,000本用意し、12月から2月まで長期間楽しめるよう順次入れ替えながら展示を行った。また、初春の見所としてクリスマスローズを整備、これまでに加えてさらに新品種の補植を行い、全体で60種1,000株の花々を楽しんでもらえた。	下半期評価	コミュニティ広場を中心とした、キクの展示装飾をはじめアイスチューリップ展示、クリスマスローズの増種整備がなされ、草花がたくさん展示装飾がなされ良い状態であった。よって、来園者の満足度も高い。日常の植物栽培管理および展示装飾について、作業の点検および植物状態のチェック体制を整え管理に当たられたい。
	☆☆☆☆		☆☆☆	

利用者満足度を高め、入園者数を確保する業務（募集要項 P 11～12、仕様書その1 p 7～8、23）				
評価項目2	指定管理者の自己評価		市（施設所管課）の評価	
	上半期評価	園内の見所の整備とそれに伴う広報宣伝の結果、指定管理へ移行して以来、4・5・6月の3か月では平成25年以降最高を記録し、前期だけで73,523人の入園者となり、過去3年間の平均に対しても162%と大きく上回る結果となった。また「あおばなフェスタ」を農林水産課と共催、実際に咲くアオバナと共に関連イベントを実施した。	上半期評価	園地等の展示装飾の演出や宣伝PRの効果から、上半期においては特に4月、5月、6月の入園者は好調であり、今年は群生ハスが生育していたところと同様の入園者となった。
	☆☆☆☆		☆☆☆☆	
	下半期評価	クリスマスローズの開花に合わせて、横山直樹氏の講演会を開催、栽培方法など学ぶ機会を設けた。また、大人が楽しめるイベントとして、武田薬品と連携し「七味づくり」を開催。使用される植物の話を通して、植物への興味関心を高める植物園ならではの企画となった。	下半期評価	下期の展示装飾（キク、アイスチューリップ、クリスマスローズなどの）みずの森ならではの良い展示装飾がなされた。また、マスコミ報道や情報提供され来園のきっかけに良い作用をしている。近年、下半期の入園者数が伸びており、各月の入園者数が底上げとなっており、年間の入園者数増に良い結果となっている。
	☆☆☆☆		☆☆☆☆	

快適な環境を提供するための施設の維持管理業務（仕様書その1 p 12～15、その3 p 1～94）				
評価項目3	指定管理者の自己評価		市（施設所管課）の評価	
	上半期評価	利便性向上のため、園内の不陸修正や休憩棟のトイレ段差解消など、利用者の視点に立った整備を進めた。温室では、水槽のヒーターが故障したため交換修繕を行ったが、世界的な電子部品の供給不足などで予想以上に時間がかかったが、余裕を持って発注することで植物には影響なく作業を終えることが出来た。	上半期評価	施設清掃メンテナンスについて、常に美しく清掃が実施されている。施設の安心・安全な利用をいただくため、また美観や長寿命化にも配慮したメンテナンスを実施していただきたい。
	☆☆☆		☆☆☆	
	下半期評価	駐車場に設置されている掲示板やみずの森への誘導看板など、経年劣化による色褪せや破損があったため交換修繕を行い、施設の維持管理に努めた。日常点検にて、一時期を境に井水の使用量が急増している事を確認、調査の結果配管のズレによる漏水と判明。早急に対応したことで最小限の被害で留まった。	下半期評価	みずの森の掲示板、案内看板類が更新され美しくなった。施設清掃メンテナンスについて、常に美しく清掃が実施されている。来園者の評価も高い。施設的美観や長寿命化にも配慮したメンテナンスを実施していただきたい。
	☆☆☆☆		☆☆☆	

ノウハウを活かし、ニーズに合った自主事業の実施（提案書Ⅲ-8（6）p 65～69、仕様書その1 p 16、18）				
評価項目4	指定管理者の自己評価		市（施設所管課）の評価	
	上半期評価	草津エストピアホテルと連携し、ガーデンウエディングを実施。さらに、「mizunomori特別メニュー」を5・6月の期間限定で提供し、PRに努めた。NPO法人づどいと協力し「連ジャム」や「連ソース」などみずの森らしい商品の充実にも努めた。	上半期評価	植物販売において、サボテンや多肉植物の販売好評。引き続き、植物を中心に販売の取り扱いを増やされたい。
	☆☆☆		☆☆☆	各種イベントについては事後、効果やコストなどの検証をさて効率の良い事業実施をされたい。
	下半期評価	「びわこくさつグルメライド」へエイドステーションとして参加300名の参加者にみずの森名物のハスうどんやハスソフトを試食いただき、PRに努めた。また、「びわこマラソン」にも参加し、WELCOMEフェスタ会場にて軽食の提供を行い、参加者7,000人にPRを行った。	下半期評価	引き続き、みずの森でしか楽しめない飲食メニューの取り扱いや植物販売種類の充実を図られたい。既存の飲食メニューや植物販売については、十分な宣伝PRをされたい。
	☆☆☆		☆☆☆	